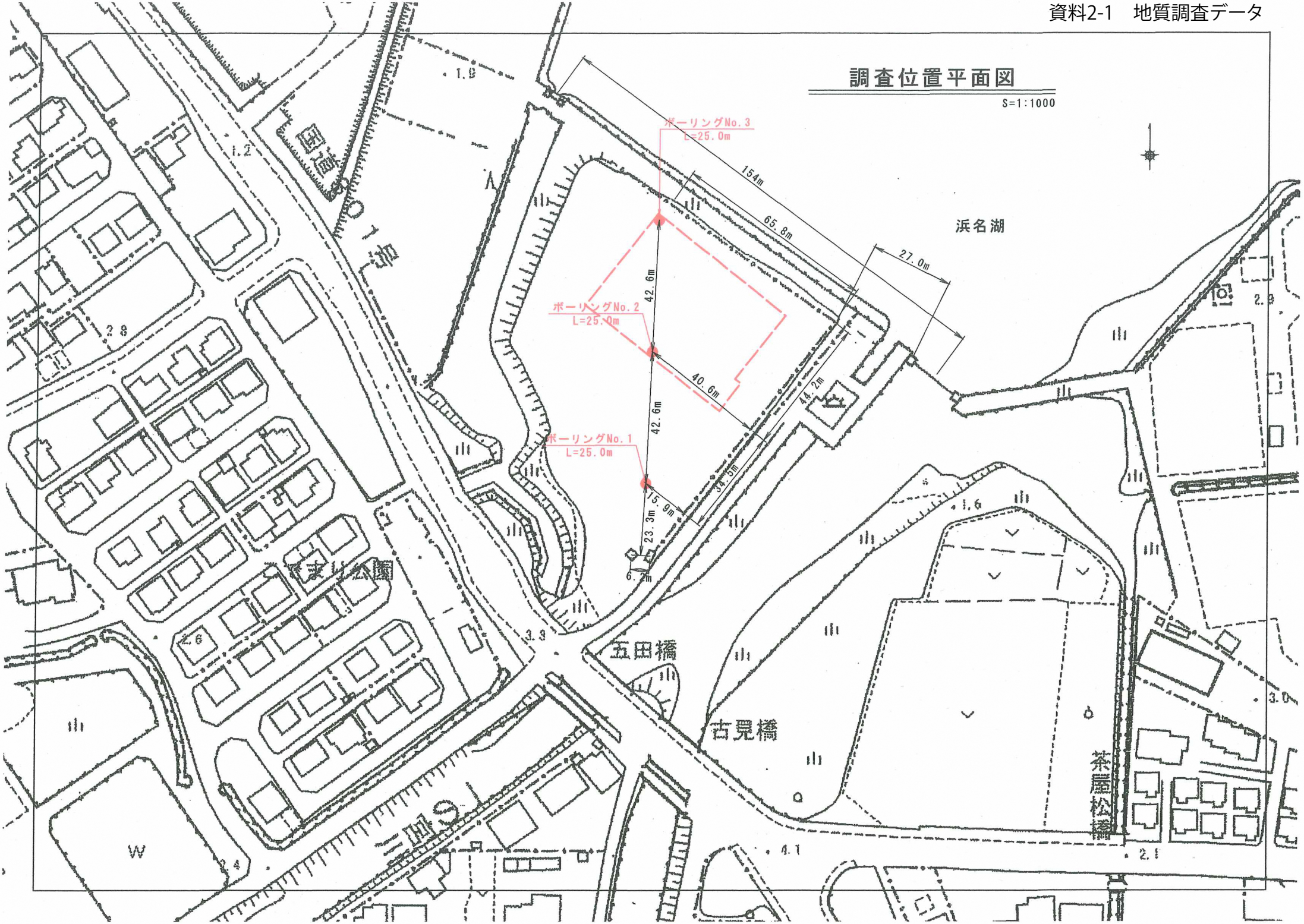

調査位置平面図
S=1:1000
ボーリングNo.3
L=25.0m
ボーリングNo.2
L=25.0m
ボーリングNo.1
L=25.0m
154m
65.8m
27.0m
42.6m
42.6m
40.6m
44.2m
34.5m
15.9m
23.3m
6.2m
浜名湖
五田橋
古見橋
茶屋松橋
三ヶ日

3

1

1
2

ボーリング柱状図

調　査　名	令和4年度 湖西市学校給食センター建設候補地地質調査業務委託
事業・工事名	令和4年度 湖西市学校給食センター建設候補地地質調査業務委託

ボーリングNo

シートNo

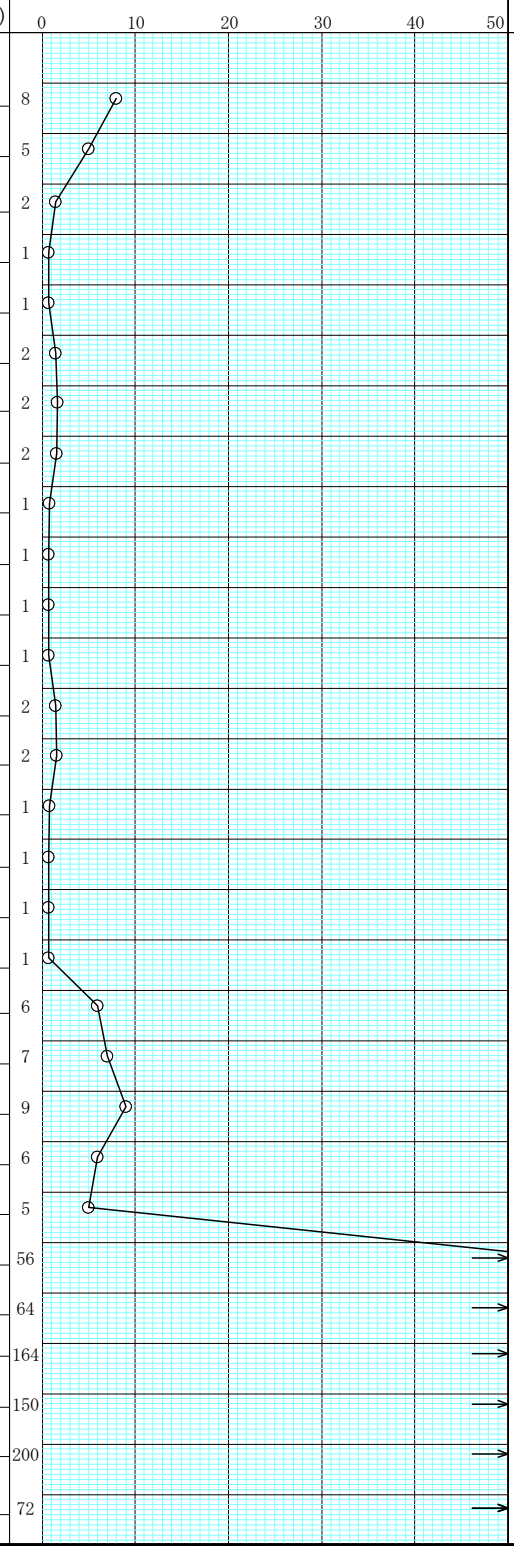
ボーリング名	No.1	調査位置	湖西市　吉美　地内			北緯	34° 43’ 26.27”
発注機関	静岡県湖西市			調査期間	2022年 7月 27日 ～ 2022年 7月 28日	東経	137° 31’ 45.27”
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]
						ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	KBM +2.08m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°
総掘進長	29.40m					使用機種	

試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動
エンジン	NFD-9	ポンプ	V-5

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
1					盛土(礫混じりシルト質砂)	茶～暗灰	緩い		細砂を主体として一様ににシルトを含み、φ2mm～20mm程の亜円礫を混入する。少量の雲母片が認められ、含水低位。	完新世	7/28 2.13
2	-0.02	2.10	2.10								
3	-0.92	0.90	3.00		シルト質砂	褐灰～暗灰	緩い		粒径均一な細砂を主体として全体にシルトを含み、所々貝殻片を混入する。含水高位。		
	-1.42	0.50	3.50								
4					有機質シルト	黒灰		非常に軟らかい	粘性高位、含水中位のシルトを主体として、全体に有機質を呈する。微量の細砂が混入する。		
5					シルト質砂	暗灰	非常に緩い		粒径均一な細砂を主体として全体にシルトを含み、少量の雲母片が混入する。含水中位～高位。		
6	-4.52	3.10	6.60								
7	-5.62	1.10	7.70		砂混じりシルト	暗灰		非常に軟らかい	粘性中位、含水中位のシルトを主体として、少量の細砂を混入する。ごく微量の雲母片や貝殻片、稀に有機物の混入が認められる。		
8					シルト	暗灰～黒灰		非常に軟らかい	粘性中位、含水中位～高位のシルトを主体として、所々貝殻片の混入が見られる。非常に軟質で、掘進時に孔壁の押し出しが確認される。		
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18	-16.62	11.00	18.70								
19					砂混じりシルト	暗灰		軟らかい	粘性やや高位、含水中位のシルトを主体として全体に細砂を含み、所々細礫を混入する。GL-20.00m付近、GL-23.00m付近は有機質を呈し、GL-21.00m付近では細砂が卓越する。		
20											
21											
22											
23	-21.62	5.00	23.70								
24					シルト混じり砂礫	暗灰	非常に密な		φ2mm～30mmの亜円礫を主体として、シルト混じりの細砂～中砂が礫間を充填する。礫の最大粒径は70mm程度、GL-25.00m付近では砂分が優越する。全体に少量の雲母片を混入し、含水中位。	更新世	
25											7/27
26	-24.72	3.10	26.80								
27					礫混じり砂	暗灰～褐灰	非常に密な		粒径均一な細砂を主体として、φ2mm～20mm程の亜円礫を混入する。層下部では礫の混入が減少し、少量のシルトを含む。全体に少量の雲母片が認められ、含水低位～中位。		
28											
29	-27.32	2.60	29.40								7/28

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	3	3	8／30	8
1.45 2.15	1	2	2	5／30	5
2.45 3.15 3.55	1／20	1／20		2／40	2
4.15 4.55	1／20	0／20		1／40	1
5.15 5.55	1／40			1／40	1
6.15 6.55	1／20	1／20		2／40	2
7.15	1／18	1／18		2／36	2
7.51 8.15 8.53	1／20	1／18		2／38	2
9.15	1／17	0／20		1／37	1
9.52 10.15 10.55	1／40			1／40	1
11.15 11.55	1／40			1／40	1
12.15 12.55	1／40			1／40	1
13.15 13.55	1／20	1／20		2／40	2
14.15 14.53	1／20	1／18		2／38	2
15.15	1／18	0／18		1／36	1
15.51 16.15 16.55	1／40			1／40	1
17.15 17.55	1／40			1／40	1
18.15 18.55	1／40			1／40	1
19.15	2	2	2	6／30	6
19.45 20.15	2	2	3	7／30	7
20.45 21.15	3	3	3	9／30	9
21.45 22.15	2	2	2	6／30	6
22.45 23.15	2	1	2	5／30	5
23.45 24.15	12	21	23	56／30	56
24.45 25.15	22	18	20／8	60／28	64
25.43 26.15	46	14／1		60／11	164
26.26 27.15	39	21／2		60／12	150
27.27 28.15	60／9			60／9	200
28.24 29.15	23	20	17／5	60／25	72
29.40					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日

ボーリング柱状図

調　査　名	令和4年度 湖西市学校給食センター建設候補地地質調査業務委託
事業・工事名	令和4年度 湖西市学校給食センター建設候補地地質調査業務委託

ボーリングNo

シートNo

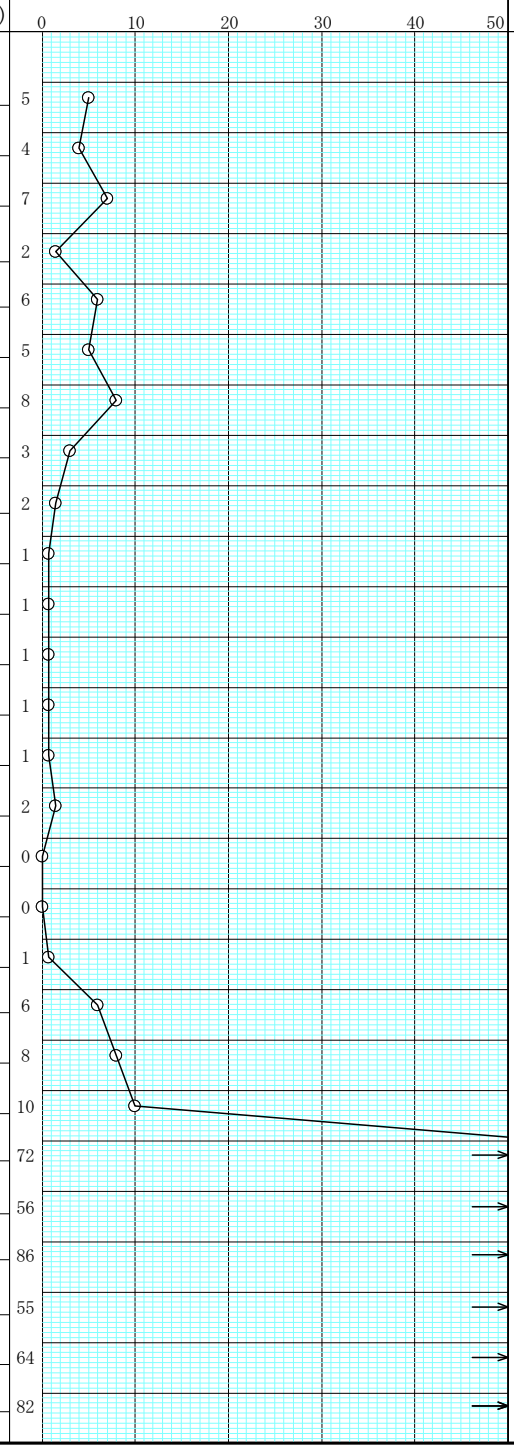
ボーリング名	No.2	調査位置	湖西市　吉美　地内			北緯	34° 43’ 27.71”
発注機関	静岡県湖西市			調査期間	2022年 7月 19日 ～ 2022年 7月 20日	東経	137° 31’ 45.25”
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]
						ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	KBM +2.26m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°
総掘進長	27.37m	使用機種		試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動
				エンジン	NFD-9	ポンプ	V-5

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	
1	1.11	1.15	1.15		盛土(礫混じりシルト)	茶褐			粘性中位、含水中位のシルトを主体として全体に礫を混入する盛土。地表部は芝が植えられている。	
2～7	-5.44	6.55	7.70		シルト質砂	暗灰	緩い		細砂を主体として、粘性中位のシルトが不規則に混在する。GL-2.00m～-4.00m付近は細砂が卓越し、有機物が点在する。GL-6.00M付近ではシルトがやや多く、GL-7.00m付近では細砂とシルトが互層を成す。含水中位～高位を示し、微量の雲母片が認められる。	完新世
8～9	-7.54	2.10	9.80		砂質シルト	暗灰		非常に軟かい	粘性中位、含水中位のシルトを主体として、全体に細砂を含む。微量の雲母片が認められる。	
10～18	-16.54	9.00	18.80		シルト	暗灰		非常に軟らかい	粘性中位、含水中位の均質なシルト。非常に軟質であり、GL-10.00m付近では貝殻片の混入、GL-13.00m付近では有機物の点在が認められる。	
19	-17.34	0.80	19.60		礫混じり砂質シルト	黒灰～暗灰		軟らかい	粘性中位、含水中位のシルトを主体として、全体に細砂を含み、細礫を混入する。	
20～21	-19.34	2.00	21.60		シルト混じり砂礫	黒灰～暗灰	rd2～rd3		φ2mm～10mm程の亜円・亜角礫を主体として、シルト～細砂が礫間を緩く充填する。礫の最大粒径は50mm程度、全体的に含水中位を示す。	
22～27	-25.11	5.77	27.37		砂礫	暗灰	密な		φ2mm～30mm程の亜円・亜角礫を主体として、細砂～中砂が礫間を密に充填する。全体に少量のシルトを混入し、含水中位～高位。GL-23.00m以深では掘進時、孔壁の崩壊が著しい。	更新世

孔内水位(m)／測定月日：7/19 2.20

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	2	2	5／30	5
1.45 2.15	2	1	1	4／30	4
2.45 3.15	2	3	2	7／30	7
3.45 4.15 4.55	1／20	1／20		2／40	2
5.15	2	2	2	6／30	6
5.45 6.15	2	2	1	5／30	5
6.45 7.15	2	3	3	8／30	8
7.45 8.15	1	1	1	3／30	3
8.45 9.15 9.55	1／20	1／20		2／40	2
10.15 10.55	1／40			1／40	1
11.15 11.55	1／40			1／40	1
12.15 12.55	1／40			1／40	1
13.15 13.55	1／40			1／40	1
14.15 14.55	1／40			1／40	1
15.15 15.55	1／20	1／20		2／40	2
16.15 16.55	ハンマー自沈			0／40	0
17.15 17.55	ハンマー自沈			0／40	0
18.15 18.55	1／40			1／40	1
19.15	2	2	2	6／30	6
19.45 20.15	2	3	3	8／30	8
20.45 21.15	3	3	4	10／30	10
21.45 22.15	21	24	15／5	60／25	72
22.40 23.15	21	17	18	56／30	56
23.45 24.15	25	28	7／1	60／21	86
24.36 25.15	17	18	20	55／30	55
25.45 26.15	16	20	24／8	60／28	64
26.43 27.15	18	27	15／2	60／22	82
27.37					



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（　）

掘進月日：7/19、7/20

ボーリング柱状図

調　査　名	令和4年度 湖西市学校給食センター建設候補地地質調査業務委託
事業・工事名	令和4年度 湖西市学校給食センター建設候補地地質調査業務委託

ボーリングNo

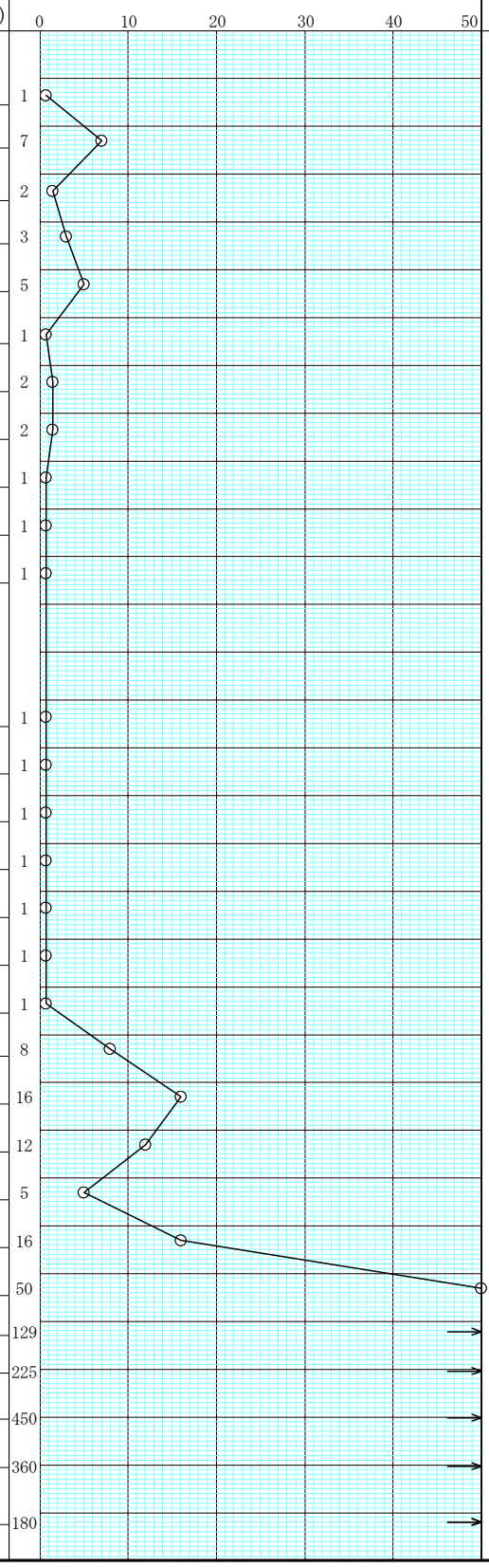
シートNo

ボーリング名	No.3	調査位置	湖西市　吉美　地内			北緯	34° 43’ 29.44”
発注機関	静岡県湖西市			調査期間	2022年 7月 20日 ～ 2022年 7月 21日	東経	137° 31’ 45.00”
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]
						ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	KBM +2.06m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°
総掘進長	31.25m	使用機種		試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動
				エンジン	NFD-9	ポンプ	V-5

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
	1.56	0.50	0.50		盛土(礫混じり砂)	茶灰			細砂を主体として礫および少量のシルトを一様に含む。含水中位～高位。		7/20 0.90
1					シルト質砂	暗灰	rd1～rd2		細砂を主体として、粘性中位のシルトを不規則に混入する。GL-1.00m付近では有機物を含み、GL-2.00m付近では細礫の混入が見られる。GL-3.00m付近ではまれにφ30mm程の礫を混入する。不規則に貝殻片を混入し、全体に少量の雲母片が認められる。含水高位。		
2											
3											
4	-2.44	4.00	4.50								
5											
6	-4.54	2.10	6.60		砂混じりシルト	暗灰～黒灰		rd1～rd2	粘性中位、含水中位のシルトを主体として、細砂を混入する。全体に少量の雲母片、不規則に貝殻片が認められる。		
7											
8					砂質シルト	暗灰		非常に軟らかい	粘性中位、含水高位のシルトを主体として、全体に細砂を含む。不規則に炭化物や木片の混入が認められる。		
9	-6.94	2.40	9.00								
10					シルト	暗灰～黒灰		非常に軟らかい	粘性中位、含水中位の概ね均質なシルト。GL-9.00m～10.00mでは少量の細砂を混入して、やや有機質を呈する。GL-11.00m付近では少量の有機物を混入する。GL-16.00m付近以深より含水高位となり、非常に軟質。孔壁の押し出しが見られ、少量の有機物や、所々細礫を混入する。GL-19.00m付近より砂分を含み、含水中位となる。	完新世	
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20	-18.04	11.10	20.10								
21					砂混じりシルト	暗灰		締まった	粘性中位、含水中位のシルトを主体として、層上部では全体に細砂を含み、層下部ではシルトと細砂が互層を呈する。全体に少量の雲母片が認められる。		
22	-20.29	2.25	22.35								
23					シルト質砂	暗灰～黒灰	中ぐらい		粒径均一な細砂を主体として、シルトをブロック状に混入する。含水中位。全体に少量の雲母片を混入し、GL-25.20m付近では細礫や腐植物の混入が認められる。		
24											
25	-23.29	3.00	25.35								
26					シルト混じり砂礫	暗灰～茶灰	非常に密な		φ2mm～30mm程の亜円礫を主体として、シルト混じりの細砂が礫間を密に充填する。礫の最大粒径は80mm程度、不規則にシルトの薄層を挟む。掘進時、層上部で孔壁の崩壊が認められる GL-27.00m付近より色調の変化が認められる。	更新世	
27											
28											
29											
30	-28.54	5.25	30.60								
31	-29.19	0.65	31.25		礫混じりシルト質砂	灰褐	非常に密な		細砂を主体として一様にシルトを含み、φ2mm～10mm程の亜円礫を混入する。含水中位。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1			1	
1.55	40			40	1
2.15	3	2	2	7	
				30	7
2.45	1	1		2	
3.15	20	20		40	
3.55					2
4.15	1	1	1	3	
				30	3
4.45	1	2	2	5	
5.15				30	5
5.45	1			1	
6.15	40			40	
6.55					1
7.15	1	1		2	
7.55	20	20		40	2
8.15	1	1		2	
8.55	20	20		40	2
9.15	1			1	
9.55	40			40	1
10.15	1			1	
10.55	40			40	1
11.15	1			1	
	40			40	1
11.55					
14.15	1			1	
14.55	40			40	1
15.15	1			1	
15.55	40			40	1
16.15	1			1	
16.55	40			40	1
17.15	1			1	
17.55	40			40	1
18.15	1			1	
18.55	40			40	1
19.15	1			1	
19.55	40			40	1
20.15	1			1	
20.55	40			40	1
21.15	2	3	3	8	
				30	8
21.45	4	5	7	16	
22.15				30	16
22.45	4	4	4	12	
23.15				30	12
23.45	1	2	2	5	
24.15				30	5
24.45	2	5	9	16	
25.15				30	16
25.45	12	14	24	50	
26.15				30	50
26.45	28	32		60	
27.15		4		14	129
27.29	60			60	
28.00	8			8	225
28.08	60			60	
29.00	4			4	450
29.04	60			60	
30.00	5			5	360
30.05	60			60	
31.15				10	180
31.25					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験(　)	掘進月日
		13.00	3-13	Ⓣ	物理、一軸、圧密	7/20
		13.89				
						7/21
						7/22